

トラック島（ミクロネシア連邦チューク州）沈没艦船等調査

○佐々木いたる，渡邊康司，池田克彦（株式会社アーク・ジオ・サポート：AGS）

1. はじめに

トラック島（ミクロネシア連邦チューク州）は太平洋戦争中旧日本海軍連合艦隊の根拠地であった。1944年2月17, 18日を始めとする米海軍機動部隊の空襲により、50隻弱の艦船が撃沈されたままとされている。これら艦船をミクロネシア連邦政府チューク州政府のご協力により、戦没された英霊の鎮魂（図1）と併せ沈没した艦船の正確な位置を把握し記録を後世に残すため、本調査を実施した。



図1 調査前慰霊

2. 調査概要

本調査は平成24年7月1日より7月10日までの間、トラック島の1部である夏島（DUBLON）西部の艦隊錨地と南部・東部の海域および冬島（UMAN）西部と東部海域を対象に、海底に沈没している艦船の位置を特定するために舷側固定式の3次元計測が出来るサイドスキャンソナーを用いて計測を実施した（図2）。

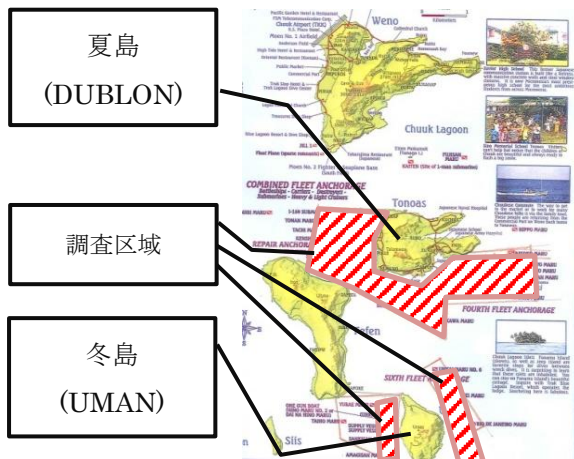


図2 調査区域図

本調査で使用した機材は3次元水中音響測深機（インターフェロメトリ方式のスワスイ音響測深機）である Teledyne-Benthos 社製「C3D-LPM」と動揺センサーTeledyne-TSS社製「TSS-DMS-05」、GNSS 及び方位センサーHemisphereGPS社製「VS-110」を使用した。

本調査では、現地コーディネーターにより情報提供・調査船の支援等と現地ダイバーによるビデオ・写真の撮影作業を得ることができた。

3. 現地調査状況

トラック島は、恒常的に貿易風の影響を受ける地域であり、風向・波向共に東寄りとなるため東西方向での航行を基本とした。また、これは調査対象となる沈没艦船のほとんどが、空襲のあった2月は強い貿易風の影響下であり、北東を船首にしたまま沈没しているという情報に基づき、サイドスキャン画像で詳細に描画される事も考慮して調査を行った（図3, 4）。

ただし、冬島東西区域については沈没艦船の配置の関係から南北方向の航行とした。



図3 調査船とソナー取付状況



図4 ダイバーによる潜水調査

4. 調査結果

本調査によってイ号潜水艦、駆潜艇、1式陸上攻撃機、零式艦上戦闘機、二式大艇、輸送船等33件のサイドスキャン画像を取得(図5、6)し、沈没艦船等(図7、8)の位置が特定(沈没位置、水深等)できた。この中には沈没位置が特定されていなかった上陸用舟艇「ダイハツ」、船名不詳2隻および構造物について、新たに発見したものを含め位置を特定できた。

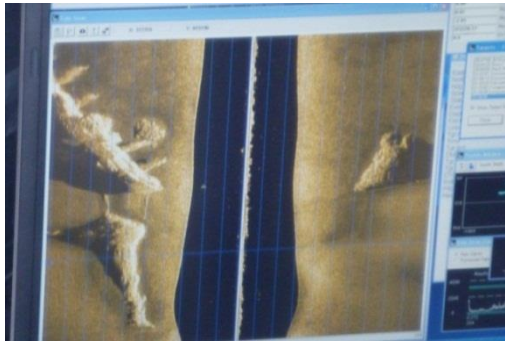


図5 サイドスキャン画像

ている事が判明した。沈没した艦船は深いもので60mを超えるものもあり、スポット的にダイバーによるビデオ・写真の撮影を実施した。調査域はサイドスキャン画像により水深に関わらず全体像を確認することができた。

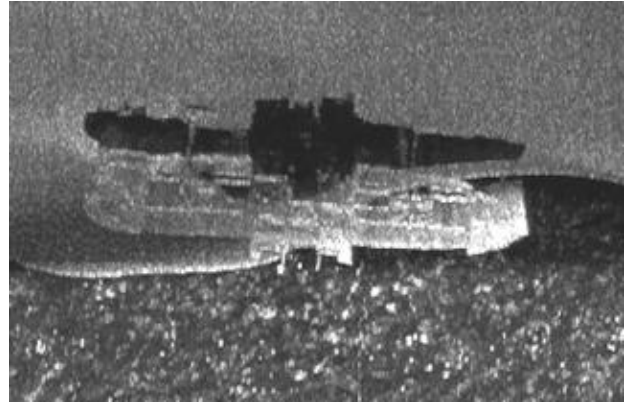


図8 長野丸サイドスキャン画像

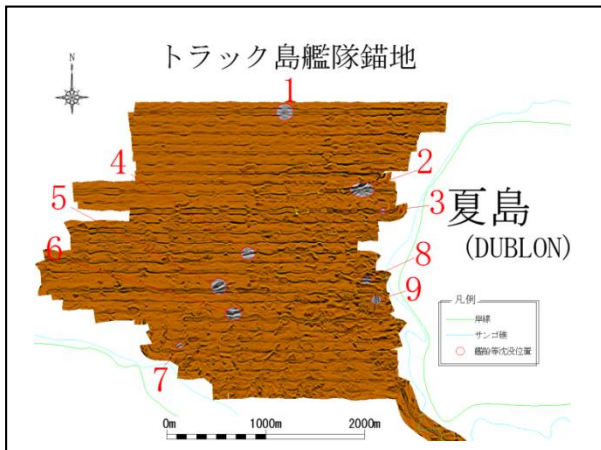


図6 艦隊錨地のモザイク画像

5. まとめ

沈没艦船乗組員の推定戦没者は、地元関係者の証言と資料から2,200名余であることが判明した。本調査がこれら国家の為戦没された方の鎮魂になれば本懐とする次第である。併せ旧日本軍艦船の沈没位置が特定されたことは後世に記録として残す意義があると思料される。またこれら沈没艦船、長野丸・りおでじゃねる丸から現在も油漏れがあり、多数の弾薬(砲弾・魚雷・機雷等)が積載された沈没艦船が有る為、今後の海域利用には配慮が必要とみられる。

今回の調査でまだ把握されていない駆逐艦文月や駆潜艇29号等の存在が今後の調査課題であるが機会があれば実行したいと考えている。

これら調査に、ミクロネシア連邦政府チューク州政府のご協力と東京大学生産技術研究所海中国際工学センター浅田昭教授及びトラックオーシャンサービスの末永卓幸氏の指導監修を頂いた事に感謝を申し上げます。

また、本調査データについては靖国神社へのご奉納とミクロネシア連邦政府チューク州政府に寄贈させていただいた。



図7 海没している潜水艦と航空機

伊169号潜水艦(左上)、零式艦上戦闘機(右上)
海軍一式陸上攻撃機(左下)、海軍二式大艇(右下)

ほとんどの艦船が北東を向いた状態で沈没し